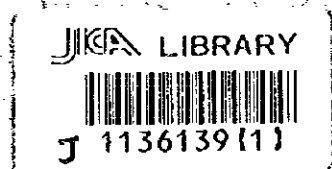


# 南アフリカ共和国の農業 (第2版)

平成9年3月



国際協力事業団  
筑波国際センター

|       |
|-------|
| TBC   |
| JR    |
| 97-14 |



# 南アフリカ共和国の農業 (第2版)

平成9年3月

国際協力事業団  
筑波国際センター



1136139{1}

## 序 文

当事業団の研修員受け入れ事業において主体をなす本邦研修は、近年では年間7000名を越え、技術協力において依然として重要な骨子となっています。

海外からの研修員がもたらす情報は、集団研修／国別特設コースではカントリーレポートとしてまとめられ、コース序盤における発表会において関係者に紹介されます。しかしながら、同レポートから得られる情報が当事業団に効果的に蓄積されてきたとはいえ、研修計画時における国別ニーズの分析等には十分活用して来たとは言えません。

当センターは、筑波インターナショナルセンターと筑波国際農業研修センターを統合して1996年5月に発足しましたが、旧筑波国際農業研修センターでは、同レポートの一層の活用を図るため、南アフリカの国別特設コース（農村開発・小規模かんがい開発・野菜栽培）のカントリーレポートの情報に内外の関連資料のデータを加えた「南アフリカの農業（第1版）」を、1995年に発行しました。

本書は、その第2版であります。基本的に第1版の構成を踏襲しましたが、第2版においては前版作成時以後に得た情報を検討し、必要に応じて加筆／削除しました。研修員からの情報を中心に取りまとめたものであるため、正確な南アフリカ農業の現状を伝えているかどうかの不安はありますが、本書に類する報告書類がまだまだ少ないところ、関係者の業務参考にいただければ幸いです。

1997年3月

国際協力事業団  
筑波国際センター  
所長 橋本 明彦



# 目 次

序文

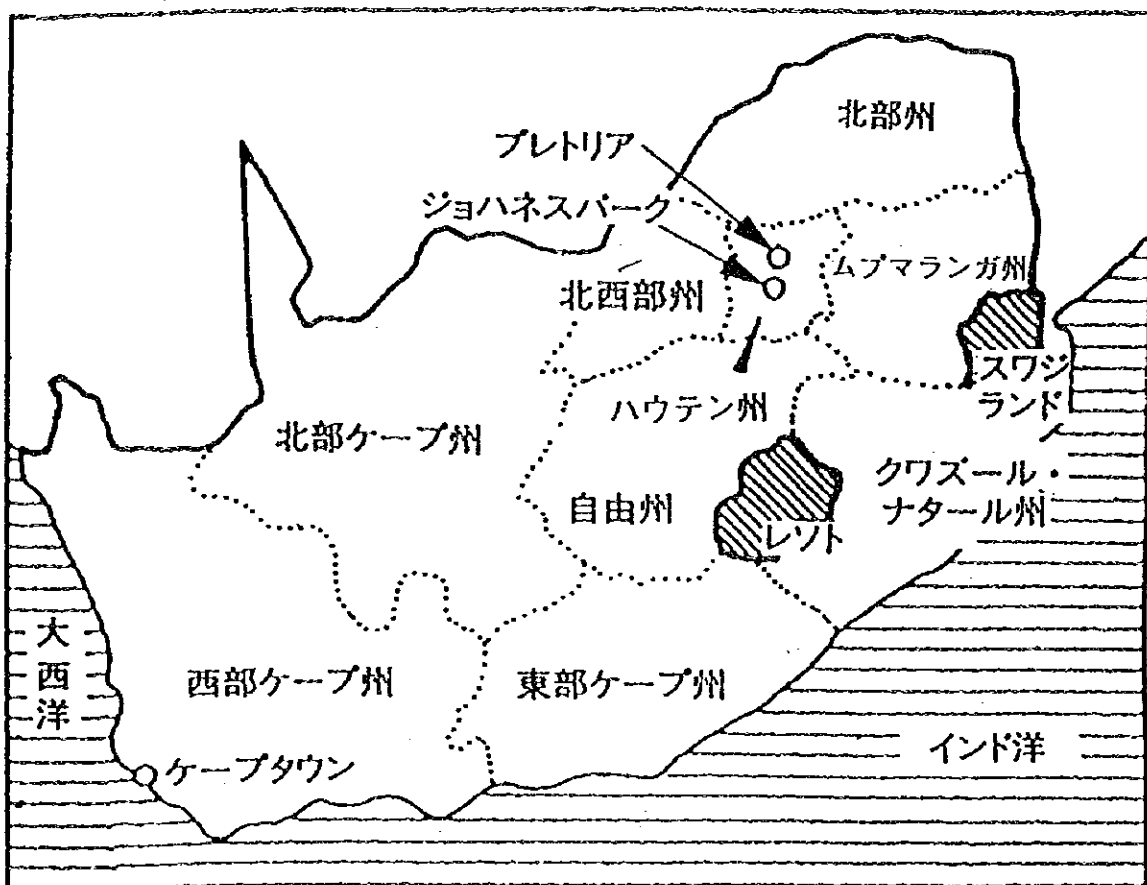
南アフリカ共和国全体地図

ページ

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 第1章 農業開発の現状と展望 .....      | 1  |
| 1. 歴史的背景 .....            | 1  |
| 2. 国民経済における農業の比重と役割 ..... | 1  |
| 3. 国の農業開発計画 .....         | 1  |
| 4. 州の農業開発計画 .....         | 2  |
| 第2章 農業生産の基礎的諸条件 .....     | 3  |
| 1. 自然条件と地域区分 .....        | 3  |
| (1) 地形 .....              | 3  |
| (2) 気候 .....              | 3  |
| (3) 土壌 .....              | 3  |
| 2. 土地制度と土地改革 .....        | 3  |
| (1) 土地制度 .....            | 3  |
| (2) 土地改革 .....            | 3  |
| 3. 営農形態と生産技術 .....        | 4  |
| (1) 大規模農場 .....           | 4  |
| (2) 小規模農家 .....           | 4  |
| 4. 農産物市場と流通機構 .....       | 4  |
| 5. 農民組織 .....             | 4  |
| 6. 農業金融制度 .....           | 5  |
| 7. 農村社会 .....             | 5  |
| (1) 農村の社会構造 .....         | 5  |
| (2) 農村の基盤整備 .....         | 5  |
| (3) 農村部における諸問題 .....      | 5  |
| 8. 農業教育 .....             | 6  |
| 第3章 各州の農業生産の概況 .....      | 7  |
| 1. クワズル・ナタール州 .....       | 7  |
| 2. 北西部州 .....             | 7  |
| 3. 北部トランスバール州 .....       | 7  |
| 4. 東部トランスバール州 .....       | 8  |
| 5. オレンジ自由州 .....          | 8  |
| 6. 北部ケープ州 .....           | 8  |
| 7. 東部ケープ州 .....           | 9  |
| 8. 西部ケープ州 .....           | 9  |
| 資料編 各種統計図表 .....          | 11 |
| 参考文献 .....                | 21 |
| 研修員リスト .....              | 23 |

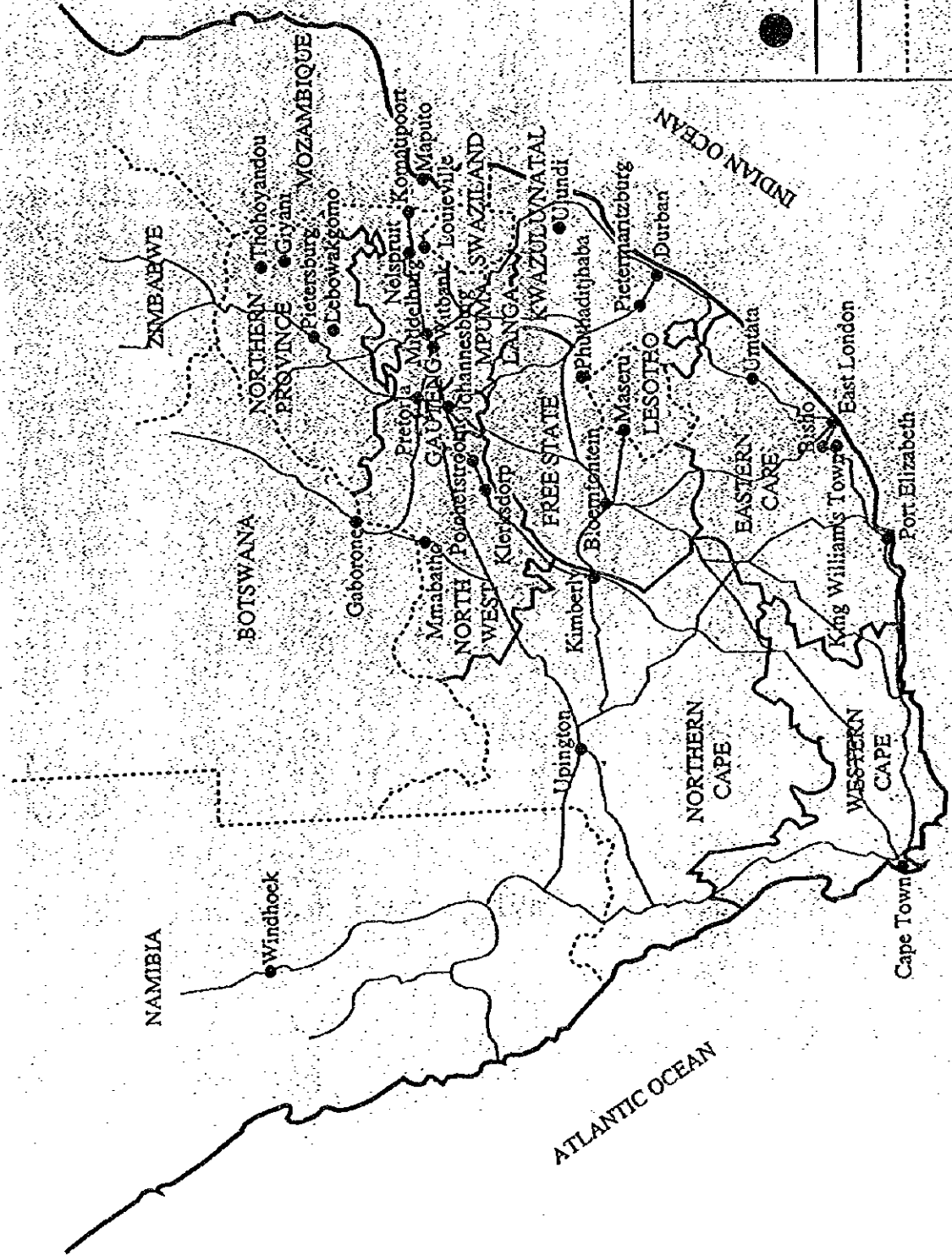
# 南アフリカ全図

1995年以降の州区分





# SOUTH AFRICAN MAP: MAJOR CITIES AND ROADS



## LEGEND

- Major cities
- Main Roads
- - - Provincial Boundaries
- ..... International Boundaries



## 南アフリカ共和国の農業

### 第1章 農業開発の現状と展望

#### 1. 歴史的背景

南アフリカ共和国では、長く続いた白人少数支配下のアパルトヘイト政策により、全人口の7割以上を占める黒人が、面積にして国土の13%に過ぎないホームランド（黒人居留地）に押し込められ、その他の土地所有は禁止されていた。このため、一国内に先進国と第三世界が同時に存在するという、極めて生活水準格差の大きい状態にあった。このような体制下におけるホームランドの農業開発計画は、白人経営の大規模農場をモデルとした、高生産・高収益を通じて雇用の場を創出し、地域社会に貢献することを目標としていたが、実情には合っていなかった。

#### 2. 国民経済における農業の比重と役割

南アフリカ共和国は他のアフリカ諸国の多くとは異なり、工業国であるとの認識をまず持つ必要がある。その規模は、サハラ砂漠以南の経済の4割の比重を占めている。国内総生産(GDP)に占める農林水産業の割合は5%、経済活動人口のうち農業に従事する者の割合は13%であり、全産業における農業の比重は比較的小さい。1992年における農業従事者の総数は1,864,000人に上り、内62%が専業で、残り38%が一時的または季節的に雇用されている。

農村部における小規模農家の主な収入源は給与、年金等非農業部門に頼っており、農業からの現金収入は少ない。しかしながら、貧困層の家庭にとって食糧の自給は、不安定な現金収入を補うものとして生活向上のため重要な意味を持っている。また、農業は一時的なものにせよ、雇用の場を提供し、失業者を吸収する機能をも合わせ持っており、農村部では50-80%の世帯が何らかの形で農業に係っている。したがって、農村開発の結果、小規模農家が発展すれば、飢餓・貧困・失業問題の解決に大きく貢献すると期待されている。

以上を視野に入れば、これからの農村開発は、従来のような大規模農場での増産・最大収量原理のみを念頭に置いたものではなく、むしろ人、特に資源に恵まれない、自給水準以下の小規模農民を支援することを目的にした、人的資源開発型の農民支援プログラム(FSP: Farmers Support Programme)であるべきことがおのずと了解されるであろう。

#### 3. 国の農業開発計画

ここでは、ANC（アフリカ民族会議）の復興開発計画（RDP: Reconstruction and Development Programme）の基本プログラム、基本原理及び農業分野でのガイドラインを挙げておく。

- 基本プログラム : 1. 基本的ニーズの充足 2. 人的資源の開発 3. 国と社会の再建  
4. 経済再建 5. 国と社会の民主化 6. 再建開発計画の実行

基本原理 : 1.総合的かつ持続可能な計画 2.国民の参加による計画推進  
3.国民のための平和と安全の確立 4.国家建設  
5.再建と開発の連結 6.南アフリカ共和国の民主化

農業ガイドライン：以下のことを保証するため、農業資源への平等なアクセスとその最も有効な利用を図る。

- 1.購入可能な価格の食物と繊維製品を国民に十分供給する
- 2.国民の人としての尊厳を保てる生活
- 3.持続可能な農村開発
- 4.雇用創出と貧困問題の解決
- 5.技術、投下労働量及び事業努力に対する正当な対価
- 6.経済開発への農業の貢献を最大限に実現
- 7.次世代のための天然資源の保全

すなわち、復興開発計画（RDP）において農業に期待されているのは、農業生産が質的・量的に強化されること、それにともない農村の生活及び社会福祉の水準が改善されることである。しかしながら、具体的な政策は提示されておらず（1995年2月現在）、今後の課題となっている。

#### 4.州の農業開発計画

新体制下の南アフリカ共和国は9つの州(Province)からなり、各州は3～4の地域(Region)、各地域は更に細かい行政区域(Magistratal District)に分割されている。この下に最小の行政単位である区(Ward)がある。

復興開発計画の実行は州政府を単位として行われ、各州政府が策定した農村開発政策の施行は、農業局（州によっては環境農業局）の担当となっている。たとえば、東部トランスバル州の基本政策は農民の定住、特にアパルトヘイトにより土地を奪われた黒人農民の一定面積の農地への定住であり、クワズル・ナタール州では土地改革及び農民の能力開発である。

ここで、クワズル・ナタール州を例として農業技術普及の体制、方法等を紹介しておく。この州には1992年現在242人の農業技術指導員、71人の家畜衛生指導員、66人の生活改善指導員、32人の林務官がいる。これらのスタッフは26の行政区域を単位として配置されており、20人からなる専任農業技術指導員が中核グループとして地域事務所、さらにその上に6人の上席専任農業技術指導員が州政府に詰めている。専任指導員から一般指導員へ、一般指導員から農民へというルートで農業の知識・情報・技術が伝達される。指導員は主に、移動研修車による視聴覚教育を行っており、農民は次のようなテーマについてのビデオを見ることができる：「トウモロコシ栽培」「ブロイラー飼養」「狂犬病の危険」「肉牛出荷」。他のテーマについても希望により視聴可能である。また、指導員が通常巡回できない遠隔地の農民のためには、25分間のラジオ番組が放送されている。州では、野菜栽培の技術普及の目的で小規模共同菜園（通称コミュニティー・ファーム、総面積0.5-2.0ha、25の小区画に分割）の設立・運営を推奨しており、1菜園当たり10-200人の参加者がキャベツ、トマト、ホウレンソウ、タマネギ、カブ、ニンジン等を栽培しており、州全体で1,328箇所、会員数は55,736人に上っている。

## 第2章 農業生産の基礎的諸条件

### 1.自然条件と地域区分

南アフリカ共和国はアフリカ大陸南端に位置し、スワジランド、モザンビーク、ジンバブエ、ボツワナ、ナミビアと国境を接し、領土内にレソトが存在する。

#### (1)地形

国土は、平均標高1,200メートルの中央高原地帯、西部の砂漠地帯、東部のナタール海岸地帯及び南部のケープ沿岸地帯の4つに分れる。中央高原地帯が国土の大半を占め、北部・東部トランスバール州、PWV州、北西部州、オレンジ自由州及び北部ケープ州に広がっている。

#### (2)気候

中央高原地帯は夏比較的涼しく、冬は気温が下がる。西へ行くにつれて雨量が少なくなる。東部のナタール海岸は亜熱帯性で気温が高く、湿潤である。南部のケープ沿岸地帯は地中海性気候で温暖、冬に雨が多い。

全国的に降雨量は限られているが、降る時は豪雨が多く、表土流出を招いている地域もある。過去3年間は連続して早魃に見舞われ、農業生産に大きな打撃を与えており、1995年も早魃の警報が出ている。

#### (3)土壌

気候同様変化に富み、酸性土壌の地域が多いが、場所によってはアルカリ性土壌や塩類濃度の高い土壌も見られる。耕作適地は少なく、全国土の10%程度だといわれている。

### 2.土地制度と土地改革

#### (1)土地制度

農村部では、部族に伝統的な土地保有制度が慣行的に行われている。すなわち、共有地は首長の管轄にあり、首長が部族民に土地を割り当てるようになっている。誰がどこの土地を耕すかを定めるのも首長であり、首長はある農民の耕作権をその一存で取り上げ、他の農民に与えることも可能である。このため農民の労働意欲の減退、資本投下の妨げ等の原因にもなっている。また、共有地が大小の土地所有権保有者、小作農民、女性農業者、家畜所有者、非農民の間で共同利用されている場合でも、土地は一般的な経済原理とは異なる伝統的価値観で捉えられており、売買の対象や融資を受ける際の担保とはなり得ず、農業の発展を妨げている。

#### (2)土地改革

マンデラ政権は5年間で30%の土地を黒人に分配することを目指しているが、白人から強制的に土地を取り上げるのではなく、黒人に補助金を出して市場で土地を入手できるようにするものであり、その前途は多難であろう。

現在農村部では、ひとにぎりの商業ベースの農場を除いて、圧倒的多数の農家が自立できる水準以下にある。これら小規模農家の自立を目指して、各州で総合的な問題解決が図られ、様々なパイロット・プロジェクトが進められている。

### 3. 営農形態と生産技術

#### (1) 大規模農場

旧体制下では公的・私的普及活動の対象は、大規模農場・商業ベースの農場のみであった。これらの農場経営者たちは、土壌診断に基づいて処方された肥料を散布し、主として主要穀物（トウモロコシ、小麦）、豆類、工芸作物（サトウキビ、綿花）、野菜（市場から離れた地域ではタマネギ、ジャガイモなど日持するものに限られる）、ワイン醸造用ブドウ、その他の果樹を栽培するか、または大規模な畜産を行っている。作物栽培における耕起、畝立て、播種、植付け、除草、収穫等一連の農作業は機械化されている。輪作を行うのが一般的である。農業資材の調達も都市部の業者からの一括大量購入が可能である。

#### (2) 小規模農家

小規模農家・自給農家は、トウモロコシを主軸に他の作物と組み合わせて耕地利用を行っている場合が多い。トウモロコシを表作に、裏作として野菜を栽培したり、トウモロコシとヒマワリまたは豆類との混合栽培を行う。混合栽培は、種子を混ぜて播種するか、小さい区画に分けて植えるか、あるいは畝の間に間作をする。一般に野菜圃場の規模は小さく（0.5ha程度）、一区画は1×2 mないし1×4 mで同一区画内に数種類の野菜を混植する場合が多い。生ゴミ等の有機物を肥料とすることが多く、農作業の大半は手作業である。野菜栽培は直播きか育苗された苗を移植して行われる。

### 4. 農産物市場と流通機構

トウモロコシ、小麦等の主要作物はそれぞれの統制取引所を通じて流通しているが、これらの取引は今後規制が緩和されて行く予定である。野菜の流通は大都市部での自由市場を通して行われている。

大規模農場・商業ベースの農場は、通常民間運送会社を使って、大都市市場に生産物を出荷している。農場によっては都市の青果市場と契約を結び、市場側の消費動向予測に基づいて需要が期待される野菜・果実を生産する。商業ベースの農場と一部の小規模農場は直接スーパーと取引をしたり、契約により食品加工工場に生産物を売ったりするが、小規模農場の場合は自由市場での売却が普通である。この場合、都市部の市場に出荷するのではなく、地元市場で売りさばくのが一般的である。自給農家で余剰生産物が出た場合も同様である。一般的に流通経費は高く、市場の競争は激しい。品目によっては市場が外国資本のプランテーションの支配下にあることもある。

### 5. 農民組織

現在、地域社会から全国レベルまでの農業協同組合の設立が進められており、クワズル・ナタール州内にはすでに約736の農協が存在する。これらの農協の主たる役割は農業資材の調達・分配である。

## 6. 農業金融制度

農村部には、頼母子講的な伝統的・私的金融システムが存在するが、小規模農業の発展のためには農業協同組合等による組織的な金融事業が重要な役割を果たすと期待される。システムの立ち上がりにはかなりの政府資金援助を必要とするであろうが、将来的には農民自身の預金・出資金が原資となることが望ましい。一般銀行の融資は通常、規模の大きい農場に限られており、零細農民が融資を受けることは難しい。

## 7. 農村社会

### (1) 農村の社会構造

南ア農村部の階層分布分析例によると1%が商業ベースの農家、13%が自給水準ぎりぎりの農家、56%が自給水準を大きく下回る農家、30%が小作農家となっている。すなわち、ごく一部の商業ベースの農家を除いては、自立には程遠い状態である。男性は大都市の工場、鉱山、白人所有の大農場等の労働者として出稼ぎに出ており、農村には女性、老人、子供が残されている。伝統的に農作業は男性の仕事で、女性は家事を担当するが、男性不在のため女性が両方を引き受けざるを得ず、重労働と重い責任を負っている。これらの家庭は、たとえ経済統計的には平均額に近い支出をしていたとしても、実際には非常に貧しく、家具はほとんど所有せず、ぜいたく品を購入する余裕はない。

### (2) 農村の基盤整備

基盤整備の状態は極めて悪く、水道、電気のないところが大部分である。家庭用燃料の種類がインフラストラクチャーの良い指標となり得るが、おおむね次のような割合である。石炭・薪ストーブ：70%、たき火：11%、ガス：10%、電気：7%、灯油コンロ：2%。このため、水くみと燃料用の薪集めに、各々毎日平均3-6kmずつ歩かなければならず、週に10-12時間の労働が費やされている。

### (3) 農村部における諸問題

農業開発に係わる問題以前に、次のような緊急に解決すべき社会的な問題が山積みされている。貧困（農村部の人口の半数以上が食うや食わずのレベル以下の生活水準で、大部分が貧困層に属する）、飢餓（競争がないため食料品の値段は高い）、高失業率、人口増加、労働力不足（出稼ぎの結果除草等季節的に集中する作業を行う人手が足りなくなる）、低い識字率と教育水準（最も基礎的な4年間の初等教育でさえ受けることが困難である）、住宅問題等とそこから起こる犯罪の増加、政治的闘争、人心の荒廃などの社会不安である。

これらの問題は、農業開発の現場では、経営能力の不足、農業技術に関する知識不足（農民だけでなく、指導員・普及員に関しても指摘される）、知識・情報の伝達に円滑さを欠く、農業用機械・器具の不足、資材の欠乏（改良品種の種子、肥料等）、資本金の不足（土地を所有していないため、これを担保として融資が受けられない）として表面化し、また遠隔地であるため流通経費が高く、市場は競争が激しく、価格が不安定であるため農産物の出荷に対して正当な対価が得られないこともあり、利益があっても金融業者、商人、地主などに吸い上げられてしまうことも多い。農村部では地域のまとまりがなく、また指

導力が発揮できる人物も十分に育っておらず、農民が一致協力して開発に当たれないなど、深刻な問題を抱えており、これらが悪循環を繰り返しているのが現状である。

#### 8. 農業教育と普及

農業に関する高等教育は6つの農業大学、テクニコンと呼ばれる技術学校および総合大学の農学部で行われている。これらの教育機関は正規の学生に対する教育の他に農民に対する訓練プログラムを提供している。同様のプログラムは各州の農業開発機関によって行われることもある。

農業省は全国各地(各気候型および栽培形態に対応して)に40ヶ所の実験農場を有し、研究、普及および教育を行っている。



### 第3章 各州の農業生産の概況

#### 1.クワズル・ナタール州 (Kwazulu Natal Province)

インド洋に面した東海岸沿いの州である。総面積3,607,360 haで、うち10%強の面積が耕作可能地である。4つの地域、26の区域からなる。亜熱帯性気候で降雨量も多く、工芸作物として、湿潤な地域でサトウキビが、やや乾燥した地域でワタが栽培されている。

サトウキビ：総栽培面積88,000ha、栽培農家戸数39,500戸、平均収量 18.5 t/ha

ワタ：総栽培面積 2,100ha、年間生産量 10,207t

州内には736の農業協同組合があり、主として資材購入・販売機能を担っている。農協は、区レベルから国レベルまで組織されている。

州農業局では、野菜栽培技術普及の目的で共同菜園（コミュニティー・ファーム）の運営を推進している。全州で約1,328ヶ所に上り、25の小区画に分割された総面積0.5-2.0haの菜園で、1ヶ所当たり10~200人（全体で約55,736人）の参加者がキャベツ、ホウレンソウ、タマネギ、カブ、ニンジン等を栽培しており、比較的規模が大きく（4~50ha）、小規模灌漑設備のあるところでは商業生産を行っている。

#### 2.北西部州 (North West Province)

トランスバル地方の北西部に位置し、東部、中央部、および西部の3地域よりなる。各地域は更にいくつかの区域に分れており、各区域に普及員、家畜衛生指導員、獣医師、共同体開発官、各1名が配属されている。農業中心の州であるが、東部では鉱業も重要である。

主要作物はトウモロコシで、主に中央部で栽培されている。その他小麦、ワタ、ヒマワリ、落花生、ソルガム、豆類があり、うち小麦、ヒマワリ、落花生は東部で、ワタは西部で作られている。西部は降雨量が少なく、主として牧畜が行われており、灌漑設備のあるところを除いては作物栽培は行われていない。東部は土壌・気候条件から野菜及び果樹栽培に適している。この地方では地下水が豊富で、ハルテピースフォンテインダムからの灌漑用水が利用できる。

#### 3.北部トランスバル州 (Northern Transvaal Province)

本州は南回帰線下にあり、気候は、高温で乾燥している。年間降雨量は400-800 mm、気温は冬季10-27℃、夏季25-40℃である。主要作物はトウモロコシ、トマト、タマネギ、オクラ、キャベツ等で、トウモロコシの収量は乾燥地帯で3-4 t/ha、灌漑地帯で10-14 t/haとなっている。

大規模農場では耕起・畝立てなどが機械化されているが、経営面積2-5haの小規模農場では手作業で行っているところも多い。輪作、畝ごとの植えつけ、施肥等はほとんどの農場で実施している。亜熱帯性の木本性作物を栽培している農場の一部では、木が若いうちは樹間に野菜を栽培することもある。

#### 4. 東部トランスバール州 (Mpumalanga Province)

南部および北東部は農村地帯であるが、耕作できる土地は限られており、灌漑できる土地もごくわずかである。北部・西部の大部分では、旱害抵抗性のある牧草による準粗放的畜産が行われている。本州の農林水産物としては以下のようなものがある。畜産（肉牛、羊、山羊）、酪農、狩猟、養殖水産物（ワニ、ナマス、ガリバルディ、マス等）、野菜（40種類以上）、香辛料、紅茶、コーヒー、ナッツ類、パプリカ、トウモロコシ、小麦、タバコ、ソルガム、ヒマワリ、落花生、林産物。

クワーマーランガ区域の総面積は3,270k、高度900-1,500mの高原であり、年間降雨量は北部、中央部、南部がそれぞれ500-600 mm、600-700 mm、700-800 mmで、気温は冬期氷点下に下がり、夏は35.6℃まで上がる。52%の土地で商業ベースの農業が可能である。

#### 5. 自由州 (Free State)

平均年間降雨量は600-700 mm、冬は極寒で最低気温は-13℃まで下がり、最高でも-1℃にとどまる。逆に夏は暑く、連日35℃に達する。土壌は特にやせてはいないが、非常に肥沃でもなく、pHは5程度で粘土質であり、養分の不足を補う必要がある。地形は起伏に富み、野菜栽培よりは、牧畜に適している。本州は農業が盛んで、特にこの地域は農業生産の中心地である。主要作物はトウモロコシ、小麦、豆類であり、1994年の生産高はトウモロコシ900,000トン、豆類150,000トンであった。野菜は自給用でわずかに余剰が売りに出されるに過ぎず、統計はない。主な種類は、生産の多い順に次のとおりである。キャベツ、ジャガイモ、トマト、豆類、ニンジン、カブ。

トウモロコシは耕起直後に播種し、畝は1 m間隔の2畝を2.5 m間隔で作し、畝間に豆類やカボチャを間作する。野菜は直播か、苗を移植するが、キャベツ、トマト、タマネギなどは移植が一般的である。

#### 6. 北部ケープ州 (Northern Cape Province)

州の総面積は363,389 km<sup>2</sup>で国土の29.7%を占めるが、人口は約80万人で全人口の1.9%しかなく、全国で最も人口密度の低い州である。州の80%の土地が農地だが、耕作可能地はそのうちわずか0.6%の225,240haで、残る28,721,622haは自然放牧地として使われ、10~20haを単位として家畜群が飼養されている。

オレンジ川沿いに灌漑設備のある集約農業生産地帯があり、トウモロコシ、小麦、野菜、ワイン用ブドウ、果物が生産されている。

畜産は準集約的ないし粗放的に行われており、肉牛、羊毛用及び肉用羊、山羊などが飼われている。酪農は消費地である都市に近く、自生する牧草を補完する飼料用作物の生産が可能な地域に限られている。ニワトリは農村部の家庭の多くで蛋白源として飼われているが、大規模養鶏は少ない。

狩猟・観光目的のゲームパーク経営が、通常の畜産業には不適な乾燥地域で近年盛んになってきている。

## 7. 東部ケープ州 (Eastern Cape Province)

亜熱帯にあり、年間降雨量は約600mmで冬に多い。主要作物はトウモロコシで、その裏作として野菜が栽培されている。野菜は自給用で、余剰が出れば近隣で売却される。輪作が実施されており、ジャガイモ栽培はイモの緑化と虫害を防ぐため、畝を立てて行われ、灌水、肥培管理、除草（クワを使用）、収穫等の作業はすべて手作業で行われる。有機物を肥料として利用している。

## 8. 西部ケープ州 (Western Cape Province)

南西部に位置し、インド洋と大西洋に面している。北部は砂漠で雨量はごく少なく、夏暑く、冬寒い。南部では降雨量が多く（年間700-1,500mm）、主として冬期（3月-8月）に降る。山が高く、降雪があり、融水がダムに水を供給する。これが夏期の果樹・野菜栽培のための灌漑水源となっている。

主要作物は小麦（収量45 t/ha）、トウモロコシ（収量38 t/ha）および野菜である。野菜は、良質な土壌と十分な灌漑用水に恵まれた地域でキャベツ、ジャガイモ、ニンジン、カブ、サツマイモ、キュウリ、トマト、レタス等が栽培されている。

州の中央部のカルー地域は、孤立峰や山脈のある広い平原で、気候は夏の高温、冬の低温と季節的及び長期化した旱魃が特長である。アルカリ性及び高塩類濃度の土壌が多い。植生は南部が乾燥低木高原、北西部がブッシュマングラス(*Stipagrostis obtusa*, *S. uniplumis*)が優勢な草原で、山岳部は灌木林や草地である。ここでは自然の半砂漠性植生に依存して、小型家畜の生産が行われており、中央部と東部では羊毛用羊、西部では肉用羊、南部ではモヘア用のアンゴラ山羊が主として飼われている。自生する牧草を補う飼料としてアルファルファ、冬作穀物（小麦、大麦、エンバク、ライムギ）、トウモロコシ、ライグラス類(*Lolium* spp.)が作られ、緊急避難的にはオールドマンソールトブッシュ(*Atriplex mummularia*)やトゲのないサボテン(*Opuntia* spp.)も利用される。



# 資料編

## \*一般状況

- 表1 : 農業人口
- 表2 : 人口及び収入の人種別構成
- 表3 : 土地利用
- 表4 : 水道の普及率
- 表5 : 道路延長
- 表6 : 調理及び照明用エネルギー源
- 表7 : 灌漑農地面積
- 表8 : 農業金融システム

## \*農作物別の生産量

- 表9 : 主要作物の生産量
- 表10 : 小麦の生産量
- 表11 : トウモロコシの生産量
- 表12 : エン麦の生産量
- 表13 : バレイショの生産量
- 表14 : 落花生(殻付)の生産量
- 表15 : ヒマワリ種子の生産量
- 表16 : ブドウ/ワインの生産量
- 表17 : サトウキビの生産量
- 表18 : キャベツの生産量
- 表19 : トマトの生産量
- 表20 : ニンジンの生産量
- 表21 : 柑橘類の生産量
- 表22 : イチゴ/綿花の生産量

## \*畜産関連

- 表23 : 家畜頭数(馬/牛/豚)
- 表24 : 家畜頭数(羊/山羊/鶏)
- 表25 : 食肉計/馬肉/家さん肉の生産量
- 表26 : 牛・子牛肉/羊・子羊肉/山羊肉/豚肉の生産量
- 表27 : 牛乳/チーズ/バター及びギーの生産量

## \*水産関連

- 表28 : 主要水産物の生産量

※出典の記載のないものは「1992 FAO Production, vol.46」からの抜粋である。

- ※出典 (1) : FAO 推定値
- (2) : 非公式数値
- (3) : Agriculture in South Africa
- (4) : 1996年度 南ア農村開発カントリーレポート (Mr. Amos)



表1 人口(1992年、×1,000)

|       |        |        |               |
|-------|--------|--------|---------------|
| 推定総人口 | 39,818 | 経済活動人口 | 14,274        |
| 農業人口  | 5,820  | 農業従事人口 | 1,864 (13.1%) |

表2 人口及び収入の人種別構成(1993)

| 人種   | 人口比    | 収入比    | 一人当たりの収入(R/年) | 格差(白人を1とした場合) |
|------|--------|--------|---------------|---------------|
| 黒人   | 76.2%  | 29.3%  | 2,717         | 11.8          |
| カラード | 8.3%   | 7.4%   | 6,278         | 5.1           |
| アジア系 | 2.6%   | 4.5%   | 12,963        | 2.5           |
| 白人   | 12.9%  | 58.8%  | 32,076        | 1             |
| 合計   | 100.0% | 100.0% | 7,062         | 4.5           |

出典：1996年度 南ア農村開発カントリーレポート(Mr. Amos)

表3 土地利用(1991年、単位：1,000ha)

|        |         |
|--------|---------|
| 総面積    | 122,104 |
| 耕地     | 12,360  |
| 永年作物地  | 814     |
| 永年草地   | 81,378  |
| 森林及び林地 | 4,515   |
| その他の土地 | 23,037  |

表4 水道普及率(住居内で水道が使える家庭の割合)

|      |     |
|------|-----|
| 黒人   | 30% |
| カラード | 83% |
| アジア系 | 90% |
| 白人   | 99% |

出典：1996年度 南ア農村開発カントリーレポート(Ms. Khosi)

表5 道路延長(1993)

|     | 舗装 (km) | 未舗装 (km) | 合計 (km) |
|-----|---------|----------|---------|
| 都市部 | 34,733  | 4,435    | 37,908  |
| 農村部 | —       | 221,092  | 221,092 |

出典：1996年度 南ア農村開発カントリーレポート (Mr. Amos)

表6 調理および照明用エネルギー源(都市、農村別、1994)

|             | 調理用    |        | 照明用    |        |
|-------------|--------|--------|--------|--------|
|             | 都市     | 農村     | 都市     | 農村     |
| 電気(電力会社)    | 75.9%  | 15.3%  | 81.8%  | 20.5%  |
| 電気(発電機)     | 0.1%   | 0.1%   | 0.4%   | 0.6%   |
| 電気(蓄電器)     | 0.0%   | 0.0%   | 0.1%   | 0.0%   |
| 電気(太陽エネルギー) | 0.0%   | 0.0%   | 0.0%   | 0.1%   |
| ガス          | 4.1%   | 5.8%   | 0.8%   | 1.6%   |
| パラフィン       | 12.5%  | 23.4%  | 5.4%   | 28.7%  |
| 薪/ロウソク      | 2.1%   | 50.0%  | 11.1%  | 48.3%  |
| 石炭          | 5.2%   | 5.1%   | ***    | ***    |
| その他         | 0.0%   | 0.2%   | 0.4%   | 0.1%   |
| 合計          | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

出典：1996年度 南ア農村開発カントリーレポート

表7 かんがい農地面積(1991年、単位：1,000ha)<sup>(1)</sup>

1,130(農地面積の約9%)



表8 農業金融システム(農業融資の貸し元内訳)

(単位：百万ランド)

|          |         |
|----------|---------|
| 商業銀行     | 5181.8  |
| 個人       | 1395.9  |
| 農業       | 1348.6  |
| その他      | 780.2   |
| 土地銀行     | 3711.0  |
| 協同組合     | 3100.6  |
| その他の金融機関 | 878.6   |
| 全借入金額    | 17196.7 |

出典：南ア農村開発カントリーレポート(Mr. Amos)

表9 主要作物の生産(1995)

| 作物        | 生産量(t)     |
|-----------|------------|
| トウモロコシ    | 4,670,000  |
| リンゴ       | 500,366    |
| サトウキビ     | 16,671,000 |
| 小麦        | 2,174,000  |
| アルファルファ乾草 | 1,671,000  |
| ジャガイモ     | 1,280,000  |
| オレンジ      | 875,662    |
| ブドウ       | 1,361,344  |

出典：1996年度 南ア農村開発レポート(Mr. Amos)

表10 小麦

|          | 収穫面積<br>(1000ha) | 収量<br>(kg/ha) | 生産量<br>(1000トン) |
|----------|------------------|---------------|-----------------|
| 1979～81年 | 1770             | 1105          | 1966            |
| 1990年    | 1550             | 1098          | 1702            |
| 1991年    | 1418             | 1504          | 2132            |
| 1992年    | 743              | 1708          | 1269            |

表11 トウモロコシ

|          | 収穫面積<br>(1000ha)    | 収量<br>(kg/ha) | 生産量<br>(1000トン)     |
|----------|---------------------|---------------|---------------------|
| 1979～81年 | 4900                | 2315          | 11322               |
| 1990年    | 3475 <sup>(2)</sup> | 2506          | 8709                |
| 1991年    | 3026 <sup>(2)</sup> | 2757          | 8342                |
| 1992年    | 3452 <sup>(2)</sup> | 905           | 3125 <sup>(2)</sup> |

表12 エン麦

|          | 収穫面積<br>(1000ha)   | 収量<br>(kg/ha) | 生産量<br>(1000トン)   |
|----------|--------------------|---------------|-------------------|
| 1979～81年 | 220                | 355           | 78                |
| 1990年    | 700                | 56            | 39                |
| 1991年    | 620                | 50            | 31                |
| 1992年    | 600 <sup>(1)</sup> | 67            | 40 <sup>(1)</sup> |

表13 バレイショ

|          | 収穫面積<br>(1000ha)  | 収量<br>(kg/ha) | 生産量<br>(1000トン)     |
|----------|-------------------|---------------|---------------------|
| 1979～81年 | 57                | 13304         | 747                 |
| 1990年    | 75 <sup>(1)</sup> | 16920         | 1269                |
| 1991年    | 75 <sup>(1)</sup> | 18440         | 1383                |
| 1992年    | 75 <sup>(1)</sup> | 16000         | 1200 <sup>(1)</sup> |

表14 落花生(殻付)

|          | 収穫面積<br>(1000ha)   | 収量<br>(kg/ha) | 生産量<br>(1000トン)    |
|----------|--------------------|---------------|--------------------|
| 1979～81年 | 245                | 1193          | 297                |
| 1990年    | 120                | 925           | 111                |
| 1991年    | 86 <sup>(2)</sup>  | 1279          | 110                |
| 1992年    | 219 <sup>(2)</sup> | 530           | 116 <sup>(2)</sup> |
| 1993～94年 | N/A                | N/A           | 92 <sup>(3)</sup>  |

表15 ヒマワリ種子

|          | 収穫面積<br>(1000ha)   | 収量<br>(kg/ha) | 生産量<br>(1000トン)    |
|----------|--------------------|---------------|--------------------|
| 1979～81年 | 342                | 1130          | 390                |
| 1990年    | 520                | 1079          | 561                |
| 1991年    | 575                | 1024          | 589                |
| 1992年    | 454 <sup>(2)</sup> | 383           | 174 <sup>(2)</sup> |
| 1993～94年 | N/A                | N/A           | 330                |

表16 ブドウ/ワイン

|          | 収穫面積<br>(1000ha) | ブドウ<br>収量<br>(kg/ha) | 生産量<br>(1000トン)     | ワイン<br>生産量<br>(1000トン) |
|----------|------------------|----------------------|---------------------|------------------------|
| 1979～81年 | 113              | 10691                | 1202                | 703                    |
| 1990年    | 150F             | 10391                | 1559                | 952                    |
| 1991年    | 150F             | 10428                | 1564                | 963 <sup>(2)</sup>     |
| 1992年    | 150F             | 9667                 | 1450 <sup>(1)</sup> | 930 <sup>(1)</sup>     |

表17 サトウキビ

|          | 収穫面積<br>(1000ha)   | 収量<br>(kg/ha) | 生産量<br>(1000トン)      |
|----------|--------------------|---------------|----------------------|
| 1979～81年 | 229                | 75509         | 17345                |
| 1990年    | 272 <sup>(2)</sup> | 66272         | 18026                |
| 1991年    | 275 <sup>(2)</sup> | 71607         | 19692                |
| 1992年    | 260 <sup>(2)</sup> | 71154         | 18500 <sup>(1)</sup> |

(3) : Agriculture in South Africa (p.89)

表18 キャベツ

|          | 収穫面積<br>(1000ha) | 収量<br>(kg/ha) | 生産量<br>(1000トン)    |
|----------|------------------|---------------|--------------------|
| 1979～81年 | 5                | 43528         | 217                |
| 1990年    | 6 <sup>(1)</sup> | 36667         | 220                |
| 1991年    | 6 <sup>(1)</sup> | 38333         | 230 <sup>(1)</sup> |
| 1992年    | 6 <sup>(1)</sup> | 33333         | 200 <sup>(1)</sup> |

表19 トマト

|          | 収穫面積<br>(1000ha)  | 収量<br>(kg/ha) | 生産量<br>(1000トン)    |
|----------|-------------------|---------------|--------------------|
| 1979～81年 | 12                | 26900         | 323                |
| 1990年    | 15 <sup>(1)</sup> | 30333         | 455                |
| 1991年    | 15 <sup>(1)</sup> | 33333         | 500 <sup>(1)</sup> |
| 1992年    | 15 <sup>(1)</sup> | 32000         | 480 <sup>(1)</sup> |

表20 ニンジン

|          | 収穫面積<br>(1000ha) | 収量<br>(kg/ha) | 生産量<br>(1000トン)   |
|----------|------------------|---------------|-------------------|
| 1979～81年 | 3                | 33730         | 106               |
| 1990年    | 3 <sup>(1)</sup> | 29000         | 87                |
| 1991年    | 3 <sup>(1)</sup> | 30000         | 90 <sup>(1)</sup> |
| 1992年    | 3 <sup>(1)</sup> | 28333         | 85 <sup>(1)</sup> |

表21 カンキツ類

|          | オレンジ<br>生産量<br>(1000トン) | レモン<br>及びライム<br>生産量<br>(1000トン) | グレープフルーツ<br>及びポメロ<br>生産量<br>(1000トン) |
|----------|-------------------------|---------------------------------|--------------------------------------|
| 1979～81年 | 581                     | 43                              | 109                                  |
| 1990年    | 712                     | 55                              | 124                                  |
| 1991年    | 678 <sup>(2)</sup>      | 62 <sup>(2)</sup>               | 132 <sup>(2)</sup>                   |
| 1992年    | 690 <sup>(2)</sup>      | 63 <sup>(2)</sup>               | 120 <sup>(2)</sup>                   |

表 22 イチゴ／綿花

|          | イチゴ<br>生産量<br>(1000トン) | 綿花<br>生産量<br>(1000トン) |
|----------|------------------------|-----------------------|
| 1979～81年 | 2836                   | 54                    |
| 1990年    | 5000 <sup>(1)</sup>    | 52                    |
| 1991年    | 5000 <sup>(1)</sup>    | 31                    |
| 1992年    | 5000 <sup>(1)</sup>    | 22 <sup>(2)</sup>     |

表 23 家畜頭数：馬／牛／豚

|          | 馬<br>(1000頭)       | 牛<br>(1000頭)         | 豚<br>(1000頭)        |
|----------|--------------------|----------------------|---------------------|
| 1979～81年 | 225                | 13647                | 1339                |
| 1990年    | 230 <sup>(1)</sup> | 13398 <sup>(2)</sup> | 1480 <sup>(1)</sup> |
| 1991年    | 230 <sup>(1)</sup> | 13512 <sup>(2)</sup> | 1490 <sup>(1)</sup> |
| 1992年    | 230 <sup>(1)</sup> | 13585 <sup>(2)</sup> | 1490 <sup>(1)</sup> |

表 24 家畜頭数：羊／山羊／鶏

|          | 羊<br>(1000頭)         | 山羊<br>(1000頭)       | 鶏<br>(1000000羽)   |
|----------|----------------------|---------------------|-------------------|
| 1979～81年 | 31625                | 5744                | 30                |
| 1990年    | 32665 <sup>(2)</sup> | 5880 <sup>(1)</sup> | 39 <sup>(1)</sup> |
| 1991年    | 32580 <sup>(2)</sup> | 5900 <sup>(1)</sup> | 40 <sup>(1)</sup> |
| 1992年    | 32110 <sup>(2)</sup> | 5900 <sup>(1)</sup> | 40 <sup>(1)</sup> |

表 25 生産量：食肉計／馬肉／家きん肉

|          | 食肉計<br>(1000トン) | 馬肉<br>(1000トン)   | 家きん肉<br>(1000トン)      |
|----------|-----------------|------------------|-----------------------|
| 1979～81年 | 1081            | 1                | 233                   |
| 1990年    | 1348            | 1 <sup>(1)</sup> | 384 <sup>(1)</sup>    |
| 1991年    | 1377            | 1 <sup>(1)</sup> | 394 <sup>(1)</sup>    |
| 1992年    | 1392            | 1 <sup>(1)</sup> | 374 <sup>(1)</sup>    |
| 1995年    | N/A             | N/A              | 689 <sup>(4)(5)</sup> |

(5)：鶏肉の生産量

表 26 生産量：牛・子牛肉／羊・子羊肉／山羊肉／豚肉

|          | 牛・子牛肉<br>(1000トン)  | 羊・子羊肉<br>(1000トン)  | 山羊肉<br>(1000トン)   | 豚肉<br>(1000トン)     |
|----------|--------------------|--------------------|-------------------|--------------------|
| 1979～81年 | 590                | 133                | 28                | 87                 |
| 1990年    | 661 <sup>(2)</sup> | 133 <sup>(1)</sup> | 34 <sup>(1)</sup> | 125 <sup>(1)</sup> |
| 1991年    | 678 <sup>(2)</sup> | 133 <sup>(1)</sup> | 35 <sup>(1)</sup> | 126 <sup>(1)</sup> |
| 1992年    | 716 <sup>(2)</sup> | 130 <sup>(1)</sup> | 35 <sup>(1)</sup> | 126 <sup>(1)</sup> |
| 1995年    | 509 <sup>(4)</sup> | 101 <sup>(4)</sup> | N/A               | 123 <sup>(4)</sup> |

表 27 生産量：牛乳(全乳、生)／チーズ(全種類)／バター及びギー

|          | 牛乳<br>(1000トン)      | チーズ<br>(トン)          | バター及びギー<br>(トン)      | 鶏卵<br>(トン)            |
|----------|---------------------|----------------------|----------------------|-----------------------|
| 1979～81年 | 2553                | 30974                | 17678                | N/A                   |
| 1990年    | 2475 <sup>(2)</sup> | 42487                | 16661                | N/A                   |
| 1991年    | 2300 <sup>(2)</sup> | 42302                | 21420                | N/A                   |
| 1992年    | 2390 <sup>(2)</sup> | 45000 <sup>(2)</sup> | 16000 <sup>(2)</sup> | N/A                   |
| 1995年    | 1074 <sup>(4)</sup> | N/A                  | N/A                  | 290000 <sup>(4)</sup> |

表 28 主要水産物の生産(t, 1992)

|      |       |
|------|-------|
| ニジマス | 990   |
| イガイ  | 1,086 |
| 観賞魚  | 32.4  |
| カキ   | 501   |
| ナマズ  | 150   |

出典：南ア農村開発カントリーレポート(Mr. Amos)

## 参 考 文 献

- |                             |                               |
|-----------------------------|-------------------------------|
| 南アフリカ共和国農業分野研修員レポート         | 国際協力事業団、1990～1994年            |
| 南部アフリカ地域援助研究会報告書            | 国際協力事業団、1994年2月               |
| 南部アフリカ ポスト・アパルトヘイトと日本       | 勁草書房、1992年7月                  |
| 新生南アフリカと日本                  | 勁草書房、1994年4月                  |
| 南アフリカ 経済・貿易の動向と見通し          | ARCレポート 世界経済情報サービス<br>1993年2月 |
| 種苗界 5～7P                    | 1994年12月号                     |
| 朝日新聞                        | 1994年5月12日                    |
| アフリカ日本協議会シンポジウム資料           | 1994年10月8日                    |
| Agriculture in South Africa |                               |
| 南アフリカ                       | 峯 陽一 岩波書店、1996年               |





LIST OF PARTICIPANTS SMALL SCALE IRRIGATION TECHNOLOGY COURSE FOR REPUBLIC OF SOUTH AFRICA (1996)

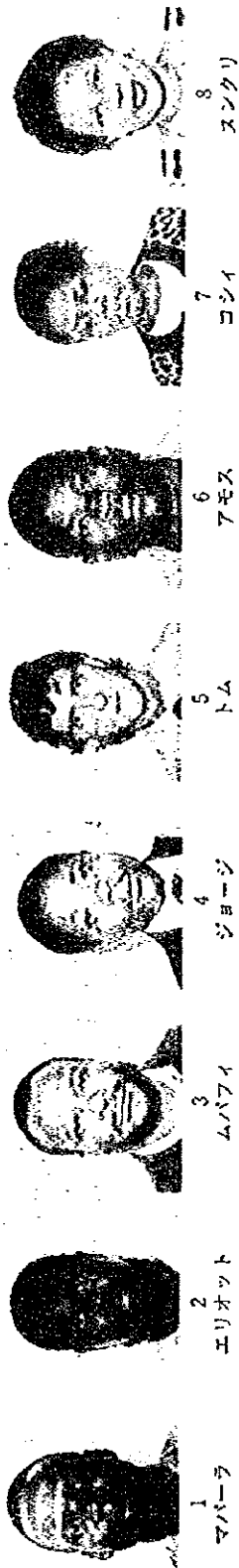
平成8年度 特設：南アフリカ・小規模灌漑技術コース 研修員名簿 (研修期間8月19日～10月22日)



| No | Name (呼称名)                          | Age (年齢) | Present Post (現職)  | Remarks (備考) |
|----|-------------------------------------|----------|--|--------------|
| 1  | Mr. LOMBARD Jan Andries<br>(アンドレ)   | 27       | Senior Technician, Irrigation Division, Department of Agriculture, Western Cape<br>上級工業技術師 灌漑工学課 農業工業局 農業省 西ケープ州<br>Private Box x1 Eisenburg 7607  | (D-96-03318) |
| 2  | Mr. HUMPHRY Robert Nigel<br>(ロッブ)   | 41       | Chief Technician, Engineering Division, Department of Agriculture, Kwazulu Natal<br>土木担当主任技術者 農業省 クワ・ズール/ナタール州<br>Dept. of Agriculture, Private Bag X9059 Pietermaritzburg 3200                        | (D-96-03319) |
| 3  | Mr. PANTSIL Lulamile<br>(パンツイ)      | 34       | Farmer Support Manager, Ciskei Agriculture Co-operation, Department of Agriculture, Western Cape<br>農業従事者支援課長 シスカイ農業公社 農業省 西ケープ州<br>P. O. Box 478 Bisho  | (D-96-03321) |
| 4  | Mr. NYILI Tseliso Paul<br>(ンティリ)    | 27       | Programme Manager (Agricultural Scientist), Support Service Division, Department of Agriculture, Free State<br>計画課長(農業科学者) サポートサービス課 農業省 オレンジ自由州<br>Dept. of Agriculture P/Bag X01, Glen, 9360         | (D-96-03322) |
| 5  | Mr. ZIKWE Qayisa Dolphus<br>(ジックウエ) | 42       | Farmer Support Officer, Agricultural Service Division, Transkei Agricultural Corporation, Department of Agriculture, Eastern Cape<br>農業従事者支援担当官 トランスカイ農業公社 農業省 東ケープ州<br>P. O. Box 1138 Queenstown 5320 | (D-96-03325) |
| 6  | Mr. OPPERMAN Stephanus<br>(ファーン)    | 49       | Chief Agriculture Technician, Extension Division, Department of Agriculture, Free State, Government of South Africa<br>農業技術主任 普及課 農業省 オレンジ自由州<br>P. O. Box 585 Dept. Agriculture Bethlehem 9700        | (D-96-06585) |
| 7  | Mr. NCEE Gaosirwe Morris<br>(モリス)   | 27       | Agricultural Trainer, Boskop Training Group<br>農業インストラクター ボスコップ訓練センター<br>P. O. Box 2707 Upington, 8800, Northern Cape  | (D-96-06586) |

国際協力事業団 筑波国際センター 〒305 茨城県つくば市高野台3-6 TEL 0298-38-1111 FAX 0298-38-1119

LIST OF PARTICIPANTS RURAL DEVELOPMENT FOR THE REPUBLIC OF SOUTH AFRICA  
 平成8年度 南アフリカ特設・農村開発 コース研修員名簿 (研修期間1996年11月11日～12月22日)

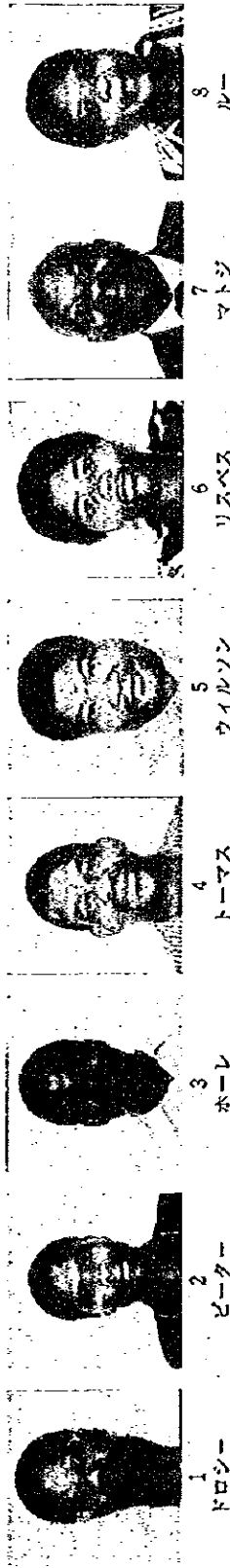


| No | Name (呼称名)   | Age (年齢) | Present Post (現職・所属先)  | Official Address (勤務先住所)  | Remarks (備考) |
|----|--|----------|--|---|--------------|
| 1  | Mr. Maphala Lazarus MOSENA<br>マバーラ<br>(Jun. 16, '67)   | 29       | Lecturer<br>Tompri Seteka College of Agriculture<br>トムピセレカ農業大学 講師  | Tompri Seteka College of Agriculture<br>Private Bag X9619, Marble Hill, 0450<br>Republic of South Africa                        | (D-96-03379) |
| 2  | Mr. Elliot Mahlengule ZWANE<br>エリオット<br>(Dec. 15, '58) | 37       | Deputy Director, Agricultural Education and Training,<br>Department of Agriculture, Land and Environment, Northern Province<br>北都州農業・土地・環境省 教育研修課長 | Dep. of Agriculture, Land and Environment,<br>Northern Province, Private Bag X9487<br>Petersburg 0700, Republic of South Africa | (D-96-03380) |
| 3  | Mr. Mphafane SIMANI<br>ムバフイ<br>(Mar. 22, '58)          | 38       | Manager, Farm Systems,<br>Department of Agricultural Development, ULIMOOR<br>シムスカイ農業公社 農家支援プログラム担当官  | ULIMOOR, P. O. Box 59, Bisho<br>Republic of South Africa  | (D-96-03381) |
| 4  | Mr. George Timothy LAZARO<br>ジョージ<br>(Oct. 27, '46)    | 50       | Agricultural Counsellor<br>Agricultural & Rural Development Corporation<br>農業・地域開発公社 農業相談員   | Agricultural & Rural Development Corporation,<br>P. O. Box 151, Mkhahluli, 1246<br>Republic of South Africa                     | (D-96-03382) |
| 5  | Mr. Thomas Ignatius DUVENHAGE<br>トム<br>(Apr. 10, '58)  | 38       | Manager, Human Resources,<br>Northern Cape Agricultural Union<br>北ケープ州農業公社 人材育成責任者   | Northern Cape Agricultural Union,<br>P. O. Box 1094, Kimberley 8300,<br>Republic of South Africa                                | (D-96-03383) |
| 6  | Mr. Ramere Amos SERUMULA<br>アモス<br>(Nov. 25, '71)      | 24       | Agricultural Scientist, Program Planning,<br>National Department of Agriculture<br>国家農業省企画局 農藝士  | Nat. Dept. of Agriculture,<br>Private Bag X250, Pretoria 0001<br>Republic of South Africa                                       | (D-96-03385) |
| 7  | Ms. Nomakhosazana KUNJWA<br>コシイ<br>(Jun. 11, '56)      | 40       | Project Leader, Eastern Cape and Western Cape Region,<br>Development Bank of Southern Africa<br>南アフリカ開発銀行 プロジェクトリーダー                               | Development Bank of Southern Africa,<br>P. O. Box 1234, Halfway House, Midrand 1685<br>Republic of South Africa                 | (D-96-03386) |
| 8  | Ms. Nonkululeko CEZA<br>スンクリ<br>(Jun. 12, '61)         | 35       | Assistant Director, Extension,<br>Department of Agriculture and Land Affairs, Eastern Cape Province<br>東ケープ州農業・土地問題省 課長補佐                          | Dep. of Agric. & Land Affairs<br>Private Bag X3040, Butterworth 4960<br>Republic of South Africa                                | (D-96-08779) |

LIST OF PARTICIPANTS

Low Input Vegetable Cultivation for Rural Development Course for Republic of South Africa (1995)

平成7年度 南アフリカ 農村開発のための低投入型野菜栽培コース 研修員名簿 (研修期間1995年10月1日～12月20日)



| No | Name (呼称名)                                | Age (年齢) | Present Post (現職)   | Remarks (備考) |
|----|---|----------|---|--------------|
| 1  | Ms. Giwu Dorothy Princess Nozibele (ドロシー) | 40       | Deputy Director, Department of Agriculture and Environmental Affairs, Eastern Cape Province<br>東ケープ州農業環境部副部長              | (D-95-02414) |
| 2  | Mr. Kgopa Peter Moketla (ビーター)            | 30       | Senior Agricultural Scientist, Department of Agriculture, Northern Province<br>北トランスバール州農業省、上級農業技術者                       | (D-95-02415) |
| 3  | Mr. Kgole Makgabo Abram (ホーレ)             | 32       | Senior Agricultural Technician, Department of Agriculture, Northern Province<br>北トランスバール州農業省、上級農業技術者                      | (D-95-02416) |
| 4  | Mr. Thomas Radise Lephalletse (トーマス)      | 36       | Controlling Officer, Boskop Training Center, North West Province<br>北西部州ボスコップ訓練センター、訓練担当                                  | (D-95-02417) |
| 5  | Mr. Lebogang Wilson Kgosieng (ウイルソン)      | 34       | Controlling Officer, Boskop Training Center, Free State Province<br>自由州ボスコップ訓練センター、訓練担当                                   | (D-95-02418) |
| 6  | Ms. Nxumalo Lisbeth Celiwe (リスベス)         | 26       | Community Organizer, Center for Low Input Agriculture Research and Development [CLIRD] (NGO)<br>低投入型農業研究開発センター(NGO)、地域指導員 | (D-95-02419) |
| 7  | Mr. Matedzi Ndidinwangani Redrick (マトジ)   | 45       | Agriculture Organizer, Northern Transvaal Development Cooperation, Agriculture Division<br>北トランスバール農業開発公社農業課職員            | (D-95-02420) |
| 8  | Ms. Ruth Ramogoblo Raphela (ルー)           | 48       | Field Coordinator, Rural Women Association for All Agricultural Groups, Northern Transvaal Province<br>農村婦人協会農業グループ、農業指導員 | (D-95-02421) |

(コース実施番号 J-95-10688)

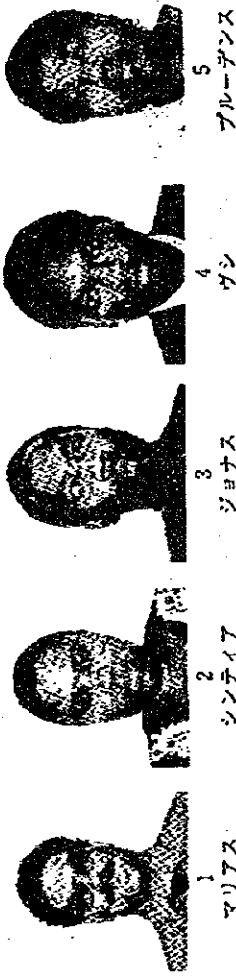
LIST OF PARTICIPANTS  
RURAL DEVELOPMENT FOR REPUBLIC OF SOUTH AFRICA (1995)

平成7年度 南アフリカ農村開発コース研修員名簿 (研修期間1995年11月6日～12月16日)

| No | Name<br>(呼称名) (生年月日)   | Age<br>(年齢) | Present Post<br>(現職及び所属先)   | Remarks<br>(備考) |
|----|--|-------------|---|-----------------|
| 1  | Mr. Alfred Dube NDALLA<br>アルフレッド ('64, 11, 11)               | 30          | Agricultural Adviser<br>Department of Agriculture, Mpumalanga Province<br>(ムプマランガ州農業省農業顧問)  | D9502422        |
| 2  | Ms. Sonikazi Nomaphelo NTONGA<br>ソニ ('59, 8, 16)             | 36          | Principal Communication Officer<br>Department of Agriculture & Environmental Affairs,<br>Eastern Cape Province<br>(東ケープ州農業環境省調整員)             | D9502423        |
| 3  | Mr. Mpfuriseni Escort<br>NETSHIKOVHELA<br>エスエート ('51, 4, 10) | 44          | Land Use Development Officer<br>Department of Agriculture, North Province<br>(北ケープ州農業省調整員)  | D9502424        |
| 4  | Ms. Michelle MULLER<br>ミッシェル ('65, 12, 19)                   | 29          | Principal Agricultural Scientist - Livestock<br>Department of Agriculture, Mpumalanga Province<br>(ムプマランガ州農業省農業科学技術指導者)                       | D9502425        |
| 5  | Mr. Petrus Jacobus MARAIS<br>ピエト(Piet) ('51, 6, 1)           | 44          | Member of the Agricultural Credit Board<br>Department of Agriculture, Central Government<br>(中央政府農業省農業融資委員会委員)                                | D9502426        |
| 6  | Mr. Adolf Pieter GROBLER<br>ドルフ ('69, 1, 26)                 | 26          | Senior Economist (Agriculture)<br>Registrar of Cooperatives, Department of Agriculture,<br>Central Government<br>(中央政府農業省協同組合登録委員会シニア・エコノミスト) | D9502427        |
| 7  | Mr. Tshilidzi Norman NENGOVHELA<br>ノーマン ('62, 12, 2)         | 32          | Extension Officer<br>Venda Agricultural Corporation<br>(ヴェンダ農業公社普及員)  | D9502428        |
| 8  | Mr. Jan Christoffel POTGIETER<br>ヤン ('63, 9, 7)              | 32          | Chief Agricultural Development Technician<br>Department of Conservation and Agriculture, Gauteng Province<br>(ハウテン州農業省主任農業開発技術者)              | D9502429        |

国際協力事業団 筑波国際農業研修センター 〒305 茨城県つくば市高野台3-7 TEL 0298-381771 FAX 0298-38-1776

LIST OF PARTICIPANTS VEGETABLE CULTIVATION COURSE FOR REPUBLIC OF SOUTH AFRICA 1996  
 平成8年度 南アフリカ国別特設「野菜栽培」コース研修員名簿（研修期間1996年10月7日～12月22日）



| No | Name (呼称名)                                | Age (年齢) | Present Post (現職)   | Remarks (備考) |
|----|---|----------|---|--------------|
| 1  | Mr. MARIUS WALTER ADENDORFF<br>(マリアス)     | 38       | Principal Agricultural Scientist (Lecturer), Lowveld College of Agriculture, Department of Agriculture, Mpumalanga Province<br>東トランスバル州アマランガ郡農業部、上級農業技術者(講師)<br>Private Bag X11283, Nelspruit, 1200 | (D-96-03388) |
| 2  | Ms. GONYANE KGAREBE CYNTHIA<br>(シンティア)    | 34       | District Planner, Agricultural Development Cooperation, North West Province<br>北西部州農業開発協同組合、地域計画担当<br>AGRICOR Private Bag X1, Radithuso, 2746   | (D-96-03390) |
| 3  | Mr. MOTSIRI JONAS SEBAKAMOTSE<br>(ジョナス)   | 29       | Horticulturist, Department of Agriculture, Free State Provincial Administration<br>オレンジ自由州農業部、園芸担当<br>Private Bag X54, Bethlehem, 9700  | (D-96-03391) |
| 4  | Mr. NEMUTSHILI VUSANI ZACHARIA<br>(ヴシ)    | 31       | Agricultural Scientist, Department of Agriculture, Northern Province<br>北トランスバル州農業部、農業技術者<br>Private Bag X2247, Sibasa 0970   | (D-96-03392) |
| 5  | Ms. XOLISWA PRUDENCE ZWELONKE<br>(ブルーデンス) | 30       | Lecturer, Tsolo Agricultural College, Department of Agriculture and Land Affairs, Eastern Cape Province<br>東ケープ州農業土地部、Tsolo農科大学講師<br>Private Bag X1008, Tsolo                                       | (D-96-03393) |





主張・解説

# 南ア経済は立ち直れるか

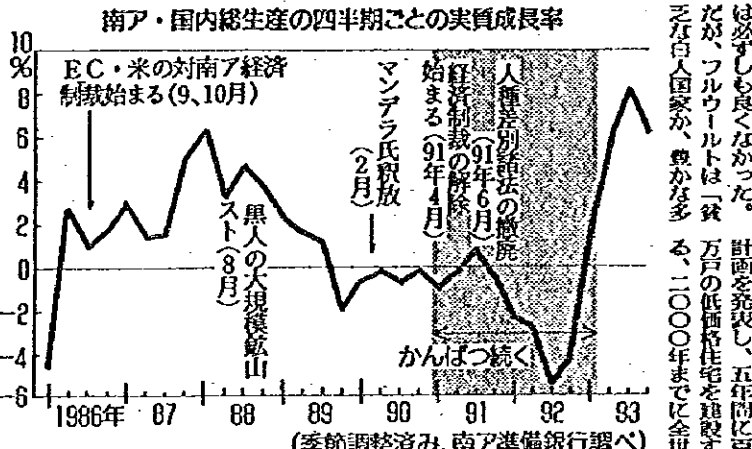
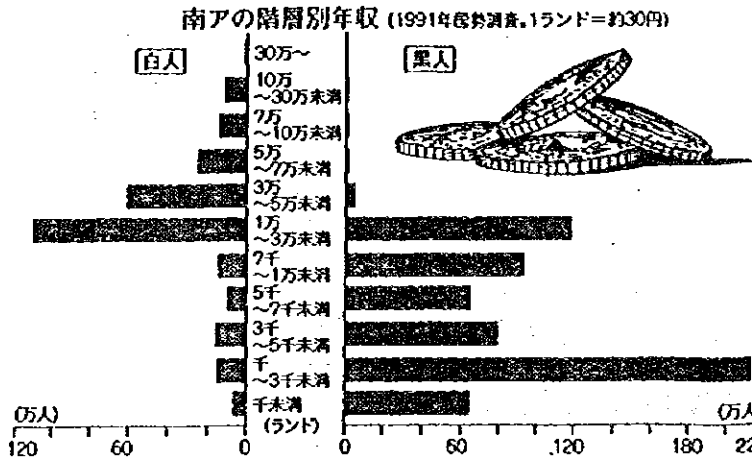
## 5%成長も

## 格差是正の費用カギに

黒人の大きな期待を抱かせるため、財政赤字を増やして経済は行き詰まる。富裕層への増徴で、白人の国外税出が増えるかも知れない。経験のない黒人が白人のポストを奪って、階級と民族が広がるのではない。三百五十万の白人支配が残り、マンデラ大統領の下で、すべての国民が平等な社会へと再出発する南アフリカの未来について、さまざまな憶測が出ている。サハラ砂漠以南の経済の四割の比重を占める国とはいえ、経済面でもアパルトヘイト(人種隔離)の後遺症を取り除くのは容易ではない。クロムやマンガンなど鉱物資源を南アに依存する日本としても今後の行方が気になるが、つぶさに見ていくのは後述の通りではない。

南ア北部にあるトランス州の黒人は、白人の平均的な収入の半分程度に過ぎない。白人の平均的な収入は、黒人の平均的な収入の二倍程度に過ぎない。白人の平均的な収入は、黒人の平均的な収入の二倍程度に過ぎない。白人の平均的な収入は、黒人の平均的な収入の二倍程度に過ぎない。

だが、農場で働く十四人の黒人の家族は、白人の家族よりも豊かだ。見れば、黒人が白人の家族よりも豊かだ。見れば、黒人が白人の家族よりも豊かだ。見れば、黒人が白人の家族よりも豊かだ。



## 黒人に土地分配、自立促す



クリフパット農地は、白人の土地を黒人に譲渡する。クリフパット農地は、白人の土地を黒人に譲渡する。クリフパット農地は、白人の土地を黒人に譲渡する。

### 農地改革

クリフパット農地は、白人の土地を黒人に譲渡する。クリフパット農地は、白人の土地を黒人に譲渡する。クリフパット農地は、白人の土地を黒人に譲渡する。

## 暴力排除と健全な政策が必要

健全な財政政策がとられる。健全な財政政策がとられる。健全な財政政策がとられる。健全な財政政策がとられる。

健全な財政政策がとられる。健全な財政政策がとられる。健全な財政政策がとられる。健全な財政政策がとられる。

健全な財政政策がとられる。健全な財政政策がとられる。健全な財政政策がとられる。健全な財政政策がとられる。

五大企業グループの二ツジエンコー会長。五大企業グループの二ツジエンコー会長。五大企業グループの二ツジエンコー会長。



五大企業グループの二ツジエンコー会長。五大企業グループの二ツジエンコー会長。五大企業グループの二ツジエンコー会長。

五大企業グループの二ツジエンコー会長。五大企業グループの二ツジエンコー会長。五大企業グループの二ツジエンコー会長。

五大企業グループの二ツジエンコー会長。五大企業グループの二ツジエンコー会長。五大企業グループの二ツジエンコー会長。

住川 治人 (編集委員)

住川 治人 (編集委員)。住川 治人 (編集委員)。住川 治人 (編集委員)。住川 治人 (編集委員)。











